

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2472100375		
法人名	有限会社 恵敬グループホーム		
事業所名	恵敬グループホーム		
所在地	三重県いなべ市北勢町垣内482番地2		
自己評価作成日	平成22年1月8日	評価結果市町村提出日	平成22年3月12日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://kaigos.pref.mie.jp/kaigosip/infomationPublic.do?JCD=2472100375&SCD=320>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人 三重県社会福祉協議会		
所在地	津市桜橋2丁目131		
訪問調査日	平成 22 年 2 月 2 日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

一般の家屋を使用しており、家庭的な雰囲気の中で生活していただいている。職員が入居者様を自分の家族を思い、暖かい介護を行っている。個々のペースを大切に、職員と入居者がゆったりとした雰囲気で過ごしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

理念を基に支援することを具体化したような、過ごしやすい雰囲気のあるグループホームである。この雰囲気は職員が一体になった取り組みから生み出されていると思われる。職員との面接結果、職員会議や日常の関わりにおいて職員間にもいつも、率直な意見交換と対応方法の浸透がされていると判明した。職員自身が、ここなら自分の親を預けられると発言しており、職員と家族との面談でも意見や苦情がない、ということに取り組みの暖かさが伺える。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー) + (Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	管理者が折に触れては理念について話している。また常に職員の目に付くことに掲げて意識付けを行い、理念の実践に取り組んでいる。	“入所者様中心に、暖かい介護”を基本理念としており、ホーム内の見やすい場所3ヶ所に掲げている。理念をよく理解するよう職員と折にふれて話し合っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近所の方には普段から挨拶をきちんと行い、野菜などを届けて頂いたりしている。災害時などの協力を日頃から依頼している。小学校や保育園の運動会に招待されたり、訪問を受けたりしている。	周辺には農家が多く、隣近所の人として関わりあっている。自治会には未加入であるが、近辺の人もよく来訪され、収穫したものを届けてくれることもよくある。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	職員がキャラバンメイト養成研修を受けるなどしており、機会があれば貢献したい。職員が近隣の方から相談を受けたりしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	事業所の近況報告を行い、参加者から意見やアドバイスをもらい、サービス向上に努めている。	昨年度までは年2回程度しか開催できなかったが、本年度からは奇数月毎に開催できるようになった。しかしメンバーの日程調整に苦労している。	運営推進会議のメンバーを固定的に考えると会議が開催しにくくなるので、その時々テーマによってふさわしいメンバーに変える等、柔軟な対応によってより円滑な運営がされることを期待したい。
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者とは日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	包括支援センターや市役所の長寿介護課には運営推進会議に参加していただき、連携を図っている。	行政とはメールでやり取りしたり、地域包括支援センターとは始終意見交換している。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束に関する研修を行い、拘束に当たる行為はないか常に意識している。	マニュアルがおりてあり、職員研修のテーマにもしている。今はその対象者はいないが、例え大変でも受け入れるつもりである。常時車椅子利用者はいるが、行動制限にならないようその対応方法をいつも職員会議で検討しあっている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待に関する研修を受け、職員にも周知している。		

惠敬

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度に関する研修を受けている。以前、利用されている方が入居していた。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	利用者やご家族に納得していただき、契約をしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	日頃から管理者がご家族と連絡をとっており、意見や要望を聞いている。家族会の際にも意見をいただいている。意見箱を設置している。	遠隔地に住んでいて、なかなか来れない人もあるが、多くの家族が比較的近くに住んでおり、適宜出入りしている。意見や要望があればその都度記録し、対応策を職員会議で話し合っている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	管理者は現場にすることが多く、常に職員の意見や提案を聞いている。それを、会議などで職員と一緒に検討している。	月1回は職員会議を開いており、研修やカンファレンス、運営方針の周知等を行っている。職員会議ではいつも好きなように意見交換がされている。日常でも何かあればその都度、率直な意見交換をしている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	働きやすい職場の雰囲気作りを行い、無理のない勤務体制を取り、職場の環境づくりに努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	研修に必要な費用などを出し、研修会への参加を勧めている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	グループホーム連絡協議会に入っており、研修会に参加したり、他施設の見学をしてサービスの質の向上に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にできるだけ本人を訪問して話を聞き、思いを受け止めるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所前に施設に来所していただいたり訪問したりして、家族の思いを受け止めるようにしている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	担当のケアマネージャーや病院の相談員などと相談しながら、他のサービスなども紹介しながら、家族と一緒に検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者が常に同じ空間の中で過し、一緒に笑ったり、時には怒ったりする関係を築いている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	本人と家族の関係を理解し、より良い関係が保てるように家族との連絡調整を行い、面会時の配慮などの支援をしている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	ご家族に依頼して、入所前に住んでいた家に連れて行ってもらったりしている。	墓参や入居前の地域との関わりには主として家族が取組んでいる。中には外泊してくる人もある。また以前の友人知人が来訪する場合もある。職員はそうした関わり方を見守っている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者間の相性の良さ悪しなどを把握し、座席を工夫するなどしてトラブルの防止に努めながら、より良い関わりができるように、見守りや援助を行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要な人には、時々電話をして近況を尋ねたり、入院先で面会したりして、相談に乗るようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	本人や家族の話を良く聞き、本人や家族の意向の把握に努めている。本人のこれまでの暮らし方等から、意向を汲み取るようにしている。	利用者の要望、意向や趣味等は本人から聞くのみでなく、家族からも聞き取るようにしている。そのうえで利用者の気持ちに沿っていけるよう支援している。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご家族や本人からのみではなく、担当ケアマネージャーと連携し、これまでの暮らし方を把握するようにしている。利用していた施設の相談員からも話を聞く事がある。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人や家族の話をよく聞き、本人の現状の把握に努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	現在の課題を職員で確認し合い、本人と家族の意見を聞き介護計画を作成している。	3ヶ月毎に職員参加の下にモニタリングをしているが、状況によっては随時のモニタリングもしている。ケアプランはケアマネージャーが策定しているが、日常は事務に追われるので介護に従事する職員からの意見を重視している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	日々の様子は個別記録に記録し、必要な事は申し送りノートに記入して情報の共有を図っている。月1回のカンファレンスや定期的なモニタリングを行い、計画の見直しを行っている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	定期通院の送迎や付き添いをしている。入所者の入院時に付き添いをする事もある。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	小学校や保育園との交流により子供達から花をもらったり、散歩の時に声をかけてもらったりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	往診や電話による相談などができる関係をかかりつけ医と築いており、必要時は往診してもらい健康管理を行っている。受診時には付き添い、医師と連携している。	協力医療機関のくわばら医院が必要に応じて往診してくれるので、利用者の多くが受診している。また症状によって皮膚科、眼科、精神科にも職員付き添いにより通院している。利用者中、1名は家族が対応している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	看護師の職員と相談しながら健康管理を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、日頃の様子や問題になると思われる行動などを文書で情報提供している。また、入院中にも面会に行き状態の把握をしている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	事業所の看護体制や勤務体制を踏まえて、家族やかかりつけ医と十分に相談・連携しながら今後の方針を決めている。	重度化した場合の受け入れを拒んではない。重度化した利用者を世話した例はある。実際には医師の指示にしたがうことにしている。入居後に利用者は少しずつ重度化しているので、普段はリハビリを重視し、少しでも歩いてもらうように取り組みたいと思っている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	救命救急の講習を受けていたが、新しい職員は受けられていないので定期的に受けるようにしていく。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	災害時の役割や対応をよく見えるところに掲示しており、毎朝役割の確認を行っている。隣近所には災害時の協力を日頃から依頼している。	消防署の立会いはないが、避難訓練は年2回実施している。救命訓練もその際に行っている。利用者には避難訓練の意味が分からない人もいるので苦労している。消防署は年1回指導に来訪している。	避難訓練の実施、緊急用のテントやトイレの準備等、防災の取り組みは工夫されているので、今後は訓練内容の充実に向け、消防署の立会い、地震や煙の体験器具の活用、夜間想定訓練等について工夫と実施を期待したい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライドを傷つけることのないように、言葉使いに注意している。プライバシー保護に関する研修をしている。	人権尊重とプライバシー保護に関するマニュアルが作られており、職員研修の際に内容確認をするよう取り組んでいる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	家族的な話しやすい雰囲気をつくるようにしている。レクリエーション等は、参加を無理強いせず本人の意思を尊重している。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活のリズムを保ちながら、昼寝をしたり自室で過したり、個々のペースで生活できるように支援している。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	化粧をしている方もいる。美容師に出張してもらっている方もあるし、美容院に行っている方もいるなど、それぞれの好みに応じて支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	もやしのひげ取り、野菜をそろえる、食器を片付けるなど、できることを一緒に行っている。庭の自家菜園で野菜を作り、その成長を見ながら一緒に収穫したものを使ったりしている。	利用者が少しずつながら重度化しているの、一緒にできることが限られてきた。多少でもできることがあればしてもらっている。食事は自家菜園、近隣からもらう野菜類など、食材で工夫をしている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	本人の好みに合わせて、温かいお茶や冷たいお茶、スポーツ飲料などを出すようにしている。牛乳が好きな人には、牛乳を配達してもらうなどの支援をしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	月1回歯科衛生士に個別指導を受けながら、日々の口腔ケアをしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	個々の排泄前の行動パターンや排泄のペースを排泄チェック表でつかむようにしながら、トイレ誘導を行い、できるだけトイレで排泄できるように支援している。	失禁する人もあり、目が離せなくなっているため、排泄チェックを常に注意して、失禁前のトイレ誘導を心がけている。失敗しても、消臭剤を振りまくようなことをしないが、室内に妙な臭いはこもってはいない。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	排便のコントロールについて検討をしたり、繊維質の食べ物をおやつにしたりしながら、便秘の改善に取り組んでいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	入浴は1日おきで、夜間の入浴は職員の勤務体制の都合上、安全面に問題があるためできないが、入浴の時間や長さなどは個々の希望に沿うようにしている。	1日おきに風呂を沸かしている。一人ずつ順に入ってもらうが全員何らかの介助が必要である。入浴を嫌がる人もいるが、できるだけ入ってもらよう働きかけている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の睡眠パターンに応じて、昼寝をしたり、就寝時間を遅らせたりしている。添い寝をする事で安心していただく事もある。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の説明用紙を読んでいる。服薬確認は3人で行い、間違えのないようにしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	掃除が得意な方、庭の草取りが得意な方など、個々に応じて楽しみながら役割を持ってもらえるように支援している。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	職員と散歩に出かけたり、買い物に出かけたり外食にでかける事もある。家族に連絡し、連れて行ってもらえるよう依頼する事もある。	住宅が集まった農村地帯で、散歩に出やすい地域であり、よく出るようにしている。気候がよければ皆がそろって、ドライブに出かけ花見、外食、買い物等をしている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買い物に行った時、自分でお金を払える人には自分で払ってもらっている。お小遣いを自分で管理している方もいる。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自分で電話をかけることができる方には、自分で電話をかけてもらっている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	一般の家屋を利用しているため、生活感にあふれている。季節の節句に合った飾り付けをするなどして、季節感を取り入れるようにしている。空調を利用し温度調節をこまめにしている。	旧農家を改造・増築したグループホームであるが、ゆったりと過ごせる雰囲気がある。部屋の扉には大きく漫画キャラクターが書かれ、自室が分かるようになっている。また室内外の温度差をなくすためにエアコンは常時24時間かけている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	リビングだけでなく、渡り廊下やホールなどにもソファを設置し、個々が思い思いの場所で気の合った方と過せるようにしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	写真を飾ったり、自分が持ってきた物を使ったりして、落ち着ける場所になるようにしている。	ベッドとクローゼットはグループホームの備品であるが、それ以外はTV、小引き出し、机から身近な小物までさまざまな好みの品が置かれている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	大きな字でトイレの表示をしたり、浴室に暖簾をかけたりして場所がわかりやすいようにしたり、段差を無くして手すりを設置し安全に過せるようにしている。		